

## 新潟市民病院 公開・オプトアウト書式

テンプレート

申請番号 22-084	
研究課題名	輸液管理長期化の回避を目指した新生児回腸ストーマにおける肛門側腸管への重炭酸リンゲル液持続注入の試み
情報の利用目的及び利用方法(他の機関へ提供される場合はその方法を含む。)	新生児期に小腸ストーマ造設を施行された児では、経腸栄養の増加に伴いストーマ口側腸管からの排液も増加します。そのため多くの水分・電解質を喪失し、その補充のために輸液管理が長期化する傾向があり、輸液管理に難渋することがあります。当科ではストーマ肛門側腸管へ重炭酸リンゲル液持続注入(本法)により輸液管理からの離脱を目指す試みを行ってきました。以下の情報をもとに、本法の有効性について検討します。
利用または提供する情報の項目	対象となる患者様の背景因子(年齢、性別、出生時の週数・体重、原疾患など)、輸液離脱までに要した期間、血液検査結果、治療効果について検討します。
対象者及び対象期間	2016年1月から2021年12月に当院で本法を施行された患者様を対象とします。
利用の範囲	新潟市民病院 小児外科 全国レベルの論文投稿を予定。
試料・情報の管理について責任を有する者	小児外科 医員 斎藤浩一
問い合わせ先	新潟市民病院 小児外科 斎藤浩一、飯沼泰史 代表 025-281-5151
共同臨床研究機関	なし
備考	